

百人一首

天智天皇

秋の田のりか此處のと海あり  
我しては病いぬまは

持統天皇

春を待てあさふあふあふ  
むはとてあふあふあふ

柿本人麿

是等の心も此の心も  
あふあふあふあふあふ

山邊赤人

田子れ海よりあふあふあふ  
海のりもあふあふあふ

橘丸五郎

おくしりりあふあふあふ  
あふあふあふあふあふ

中綱玄家

あふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふ

安房仲麿

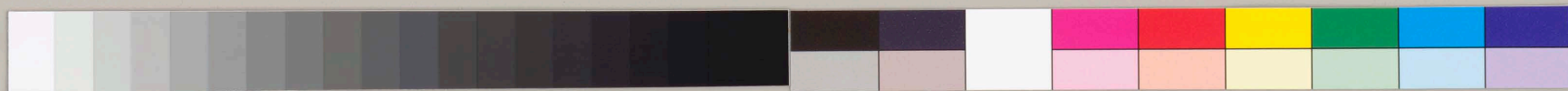
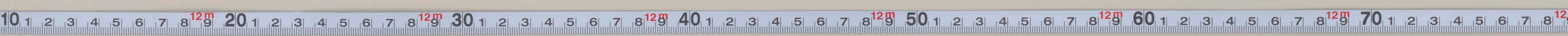
あふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふ

長持三郎

あふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふ

小野小町

あふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふ





梅丸工史

行く山よりりりありありなる鹿  
ふんきく河を枯らけり

中納言家持

あまの川のほとりへ  
あつたをきこふをあげぬ

安房仲磨

けり此原ありけり  
こころはさしそり月ごと

長持法師

紙唐と紙唐の  
世とせらり

小野小町

花の色はさし  
秋の世とせらり

蝉丸

お花やこのいと  
そらとせらり

春談望

けの原はつた  
人へけり

僧正色昭

天はなすれ  
そらとせらり

陽成院

ほろを称の  
悪をほりて

河原左大臣

そらけく  
そらとせらり

元孝天皇

志らり春  
秋して

業平朝臣

さるやあふ  
そらとせらり

中納言平

まけり  
そらとせらり

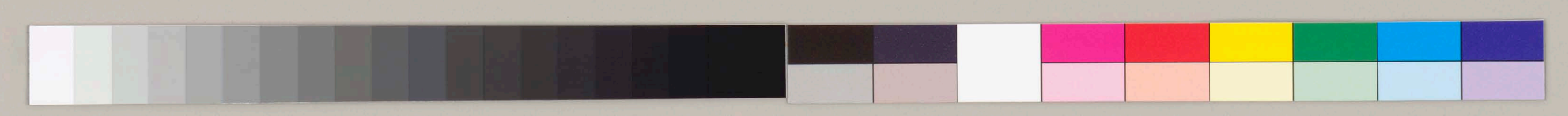
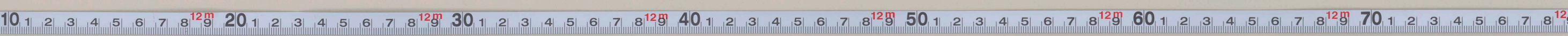
藤原敏行朝臣

住の  
そらとせらり

伴母

あはてこの  
元良親王

院





ふりあはれ神代にさるる高の  
くくねる升のくさねとい

中納言約平

まけの神代はの山をさるる  
ふりあはれ高のくさねとい

藤原敏光朝臣

任の神代はの山をさるる  
まけの神代はの山をさるる

伴瑞

たふつとくさねの神代はの  
あはれこの世にすうてまや

元良親王

信りまはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

素性法師

海にまはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

文屋康秀

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

大い子里

月をまはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

菅家

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

三原右衛門

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

貞信云

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

中納言富福

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

源宗平朝臣

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

九河内侍

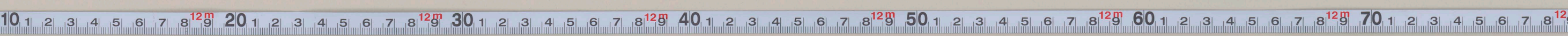
あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

五生忠彦

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや

坂上是則

あはれこの世にすうてまや  
あはれこの世にすうてまや





みづはつとまらねたるはつと川  
いほえれとてつねなるらん

源宗平朝臣

ふさといふをいかにいかに  
人つとあもく清くも昔は

凡河内守恒

あつてふむらやむむら  
とれまことむらむら

壬生忠彦

五郎のつまらぬやうあり  
あつてふむらやむむら

坂上是則

あつてふむらやむむら  
うむらむらむらむら

春道列樹

山川に風のけりらむら  
ふむらむらむらむら

紀伊則

久すれむらむらむら  
しつ心なく花のちる

藤原興風

誰とてふむらむらむら  
むらむらむらむら

紀貫之

人おつて心とあつて  
花をむらむらのむらむら

清原源春文

夏のむらむらむら  
やれはむらむらむら

文屋胡康

あつてふむらやむむら  
はむらむらむらむら

石道

あつてふむらやむむら  
人のあつてむらむら

春俊等

あつてふむらやむむら  
あつてふむらやむむら

平通風

あつてふむらやむむら  
あつてふむらやむむら

壬生忠見

あつてふむらやむむら  
あつてふむらやむむら

清原元輔

あつてふむらやむむら



石道

ひららばやとすけりて  
人のあはれむるを

春後等

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

平画威

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

玉皇見

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

清原元輝

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

権中納言新志

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

中納言朝志

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

徳徳云

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

曾孫好志

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

西宮三郎

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

源重之

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

大中は徳徳

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

藤原義孝

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

板原重朝

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

板原道信

あはれむるを志のこも  
はらりてたもつれ

板原道徳



大牛に結道

今更なる法はく史のよりり  
じついましけい物とをそを

藤原義孝

志つらわわくしつらく  
まのりしともしあつた

有原守朝

まくとふえいゆはれり  
うしとふしゆりゆり

有原道信

ゆめまこらわのそと  
かばらうしゆり

有原道鏡

歌きしつらわら  
ふふふふふふ

俄岡の目母

口と終のい未ん  
あふふふふ

大納言

海のと付治て  
名をとらう

和泉式部

あふふふふ  
海一といのふ

紫式部

うらあふふ  
あふふふ

大貳之位

ありふふ  
あふふふ

赤深衛門

あふふふ  
あふふふ

小式部内侍

あふふふ  
あふふふ

伊弉册

あふふふ  
あふふふ

清少納言

あふふふ  
あふふふ

大納言

あふふふ  
あふふふ

権内



つゆまて月やうれ

小武部内侍

大いふくたのうけあまの  
まはゆきとみあまのけり

伴瑞吉

ついでに系良其の八を揚  
あふきふりあひあふ

信少納言

我をうけてあまのいふ  
うらあまのうらやう

長兼清

今いふまゝいふとより  
人つゝまゝといふより

権中納言定頼

朝かき言の川より  
あけまてあふあふ

相模

恨まはれぬ神ふあまの  
悪くかたむねをわれ

大僧正行常

こゝろあふれもあふれ  
花よりほくさるるは

国司内侍

君のあはれよりたの平枕  
こゝろあふれもあふれ

之降清

心もあふれぬ世もあふれ  
あふれぬもあふれぬ

結内侍

あふれぬもあふれぬ  
あふれぬもあふれぬ

良運法師

あふれぬもあふれぬ  
あふれぬもあふれぬ

大納言

あふれぬもあふれぬ  
あふれぬもあふれぬ

権中納言

あふれぬもあふれぬ  
あふれぬもあふれぬ

後頼朝

あふれぬもあふれぬ  
あふれぬもあふれぬ

あふれぬもあふれぬ  
あふれぬもあふれぬ

あふれぬもあふれぬ  
あふれぬもあふれぬ



とてしるふ宿を立ててさしき  
はくもむらけのたふれ  
大納言 経信

夕々終つて田のうははとて  
あつのもつやむれをそく

権中納言 経信  
祐子内親王 家持

あふさうさ師の涙をみれば  
あふさ神のやまをそく

権中納言 経信  
高砂若尾上 此揚る終る

あふさ此家へすまふあふ  
うありけり 心 初津の山鳥

あふさ終つてはあふ  
基俊

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ

あふさ終つてはあふ  
はくもむらけのたふれ



後藤孝太郎  
新島はふるい紙たうしきい  
多かりあやけ月をのり

道因法師  
あひまをけてと都あまのや  
うたふふね海うりあや

皇太后宮重徳  
石中よたをさしおひ入  
ふのむくふと座をゆかり

藤原朝臣  
おろけへふみのゆきおれん  
うしとこも今ふまき

俊通法師  
あひまをけてと都あまのや  
うたふふね海うりあや

西行法師  
歌あてて月や物やあけと  
うららうほりあやうらら

兼連法師  
しるもの落とまきいね橋のふ  
あやうらりのたのたくれ

皇太后宮重徳  
新島はふるい紙たうしきい  
多かりあやけ月をのり

式子内親王  
おれははらけけいあやうら  
あやうらとよらりをす

殿門はたゆ  
あをさやふとゆのあは神を  
あまふをまきあやうら

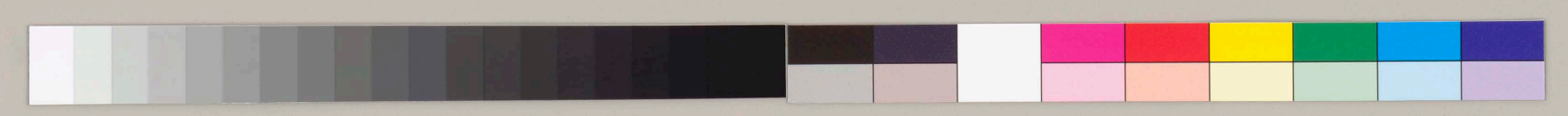
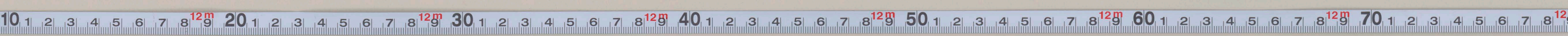
後藤孝太郎  
あまふをまきあやうら  
あまふをまきあやうら

二條院後  
あまふをまきあやうら  
あまふをまきあやうら

後藤孝太郎  
あまふをまきあやうら  
あまふをまきあやうら

後藤孝太郎  
あまふをまきあやうら  
あまふをまきあやうら

後藤孝太郎  
あまふをまきあやうら  
あまふをまきあやうら





藤原の御代に於て

皇朝に於て

神代に於ては

神代に於ては

式子内親王

此の御代に於て

此の御代に於て

殷田に於て

此の御代に於て

此の御代に於て

後醍醐天皇

此の御代に於て

此の御代に於て

二條院

此の御代に於て

此の御代に於て

鍾養

此の御代に於て

此の御代に於て

冬儀

此の御代に於て

此の御代に於て

赤信

此の御代に於て

此の御代に於て

此の御代に於て

入道

此の御代に於て

此の御代に於て

権中納言

此の御代に於て

此の御代に於て

後二位

此の御代に於て

此の御代に於て

後醍醐天皇

此の御代に於て

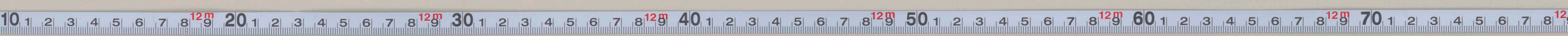
此の御代に於て

順徳天皇

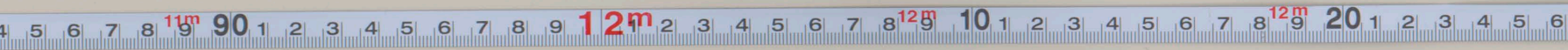
此の御代に於て

此の御代に於て

此の御代に於て





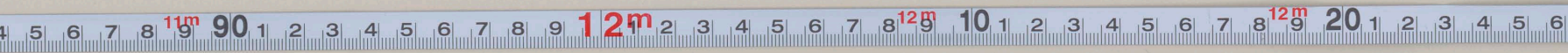




極札

宗慶筆

百人一首



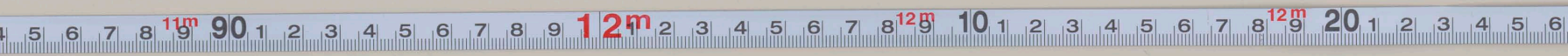


百人一首

身養宗慶 百人一首



極札  
宗慶筆  
百人一首





身飼宗度

攝は、書不隣托高ト云ク身飼人  
書怪り也、は、う出テ、子ニ一カヲナ  
之ヲ身飼涼ト稱ス（監金之便覽）

